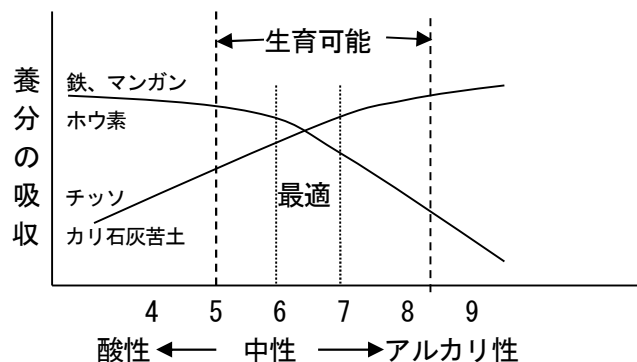


芝も酸性土壌が嫌い

肥料も水も問題ないのに生育が悪いことがあります。その原因は土壌pHが低くなっていることがあります。このことに気づいていない人も多く、土壌分析をしてみるとpHが低い土壌は多くあります。

1. pHと生育、肥料成分

土壌の酸性、アルカリ性を表すのはpHでありpH7が中性です。芝はpH5～9で生育できますが、生育の適正pHは6～7です。酸性になると生育阻害物質であるアルミニウムが土壌から溶け出します。また、チッソなどの吸収も悪くなります。一方アルカリ性になると、鉄やマンガンなどの微量元素を吸収できなくなります。施肥の効果を高め、生育を良くするには土壌のpHを整えておくことが大切です。



土壌pHと芝の生育と養分

2. 酸性になると生育悪く芝密度が低下する

pHが5以下になると、根の生育が悪くなるだけでなく芝密度も低下し、すり切れにも弱くなります。また、施肥をしても芝への反応が悪くなるので、酸性を改善する必要があります。

3. 酸性土壌の改善

① pHが適正な目砂をしよう

酸性の改善には石灰散布と思いがちですが、石灰より適正pHの目砂を使用することも重要です。下層が酸性でも表層が適正であれば問題ありません。つまりpHが5.5以下でなければ目砂で改善できます。

② 石灰の散布

石灰散布は苦土石灰が一般的で、粉と粒状があります。石灰は水に溶けにくいので、粉品の方が肥料の表面積が多く肥効は良くなります。FWなどは粒状で対応できますが、残念ながらグリーンに散布できる粒状肥料がありません。散布しづらいですが、粉品で対応して下さい。pHにもよりますが、散布量は1回あたりグリーンで30g/m²、FWなどは40～50g/m²程度です。

③ マイクログホスも使用できる

マイクログホスにはリン酸、苦土の他に、約26%の石灰を含んでいます。この石灰は硫酸石灰であり、苦土石灰のようなアルカリ性ではありませんが、土壌中では中性になるので、軽度の酸性土壌には適した肥料です。春のリン酸施肥もかねて、30g/m²程度散布して下さい。

芝草漫遊記

1月は愛媛、香川県に行きました。私は「面食い」でなく「麺食い」なので香川出張は楽しみです。うどんには「コシ」が話題になりますが、「コシ」は硬さと思っている人がいますが、「弾力」です。香川のうどんは、どこで食べてもうどんがおいしく、さすがにうどん県です。ところが、おいしくて安かったうどんも値上がりし、少しがっかりです。また久しぶりにコンビニでおにぎりの価格を見てびっくりしました。どのおにぎりも200円以上です。ゴルフ場の資材も値上がりし、芝管理が大変になっています。このような時代ほど、今までの習慣的な管理を見直してうどんのような「弾力」ある管理が必要と思います。